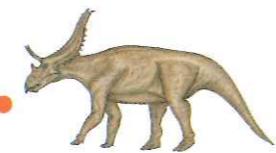


カスモサウルス

Chasmosaurus belli (Lambe, 1902)

角竜は短い顔とフリルをもつセントロサウルス類（亜科）と、長い顔とフリルをもつカスモサウルス類（亜科）に分けられています。カスモサウルスは、大きく穴の空いた襟飾りが特徴で、白亜紀の終わり頃（約7200万年前）に登場します。



カスモサウルス・ベリイは1902年にランベによってモノクロニウス・ベリイと命名されました。しかし、その後の研究で、モノクロニウス属とは異なることがわかり、1914年に同じくランベによって新しい属の名前、カスモサウルスが与えられ、最終的にカスモサウルス・ベリイとなりました。「カスモ」とは、ラテン語で「口を開けた・裂けた」という意味です。

この全身骨格レプリカ標本（左の写真）のもとになっている標本は、カナダのアルバータ州の州立恐竜公園で発見されたもので、ロイヤルオンタリオ博物館が所蔵しています（登録番号はROM843）。

残念ながらこの標本には目の上の角がありませんが、カスモサウルスにもトリケラトプスと同じように3本の角がありました。目の上の角は後ろの方にカーブしているのが特徴です。



こうひ ティラノサウルスを見上げて思うこと

「えっこれが博物館!？」。リニューアルオープンして間もない頃、恐竜博物館の前をとおりかかると、入り口で話をしている来館者の声が聞こえてきた。かつて武道館として使用されていた築30年以上経過している建物であるため、確かに外観からは博物館であることがわかりにくい。実際に、スポーツセンターやカルチャーセンターの受付で博物館の場所を訪ねられる方が多かった。**玄関に看板を掲げているにもかかわらず、気付かれずに素通りしてしまうこともあり、「もつとわかりやすく!」とお叱りを受けることもあった。**

御船町恐竜博物館は平成10年に開館し、平成12年にはリニューアルオープンした。いろいろな課題を抱えながらも、工夫しながら充実を図ってきた。しかし、建物の存在がわかりにくいということは大きな問題であり、苦情も多かった。そこで、平成14年にティラノサウルスの**ほぼ実物大の復元模型**が「目立つ看板」として、また、「博物館のシンボル展示」として製作されることになった。この模型の設置によって、役場とカルチャーセンターの間まで車で入ってきた来館者は、博物館をみつけることができるようになった。看板としての効果は十分である。また、「なぜこんなに手が小さいの?」「おっぱいはあるの?」等々、模型の前で会話が弾む光景が見られ、博

物館のシンボル展示としても十分に機能している。そして何より、笑顔でいっぱいの子どもたちが足下にあつまり、写真撮影には格好の場所になっている。このように、このティラノサウルスの模型は、文字通り、御船町恐竜博物館の“看板”として大活躍である。

現在、恐竜博物館は年間3万人を超える来館者を迎えており。地道な取り組みによって、その存在が次第に知られるようになっており、最近では、恐竜や化石関係の本には必ずと言って良いほど紹介されるようになった。また、この御船町には、**世界に三つしかないという貴重な恐竜化石**もあり、この博物館の活動は、今後ますます注目されることになりそうだ。

御船層群の恐竜化石は御船町の財産であるとともに、地球が永い年月をかけて残してくれた、私たち人類にとっての宝物である。博物館には、このような**貴重な資料を確実に管理し後の世代に伝えるという重要な使命**がある。「御船町恐竜博物館の将来はどうあるべきなのだろうか?」—開館から5年が経過し、将来的なビジョンを持つべき時期がきている。見学にやってきた子どもたちといっしょにティラノサウルスを見上げながら恐竜博物館の将来を思い浮かべた。

(御船町恐竜博物館 学芸員 池上 直樹)

御船町恐竜博物館情報誌
ダイナソートピックス No.11

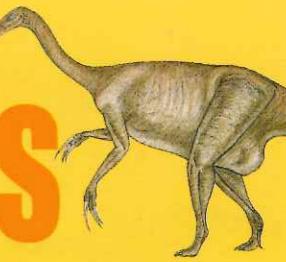
■発行日／平成16年1月15日

■編集・発行／御船町恐竜博物館

〒861-3207 熊本県上益城郡御船町大字御船995-3
TEL (096)282-4051 FAX (096)282-4157<http://www.mifunemuseum.jp/>
Email/info@mifunemuseum.jp

印刷／(株)トライ

Dinosaur Topics

No.11
2004.1.15

博物館の教育活動

博物館実習

今年度は、3名の実習生を受け入れました。実習に訪れたのは**熊本大学理学部地球科学学科の首藤寛之さん、中澤茉莉子さん、市丸祐美さん**の3名で、それぞれ、**7日間の実習**に取り組みました。当館として、実習生を受け入れるのは平成13年度以来2回目となります。

当館の実習は、「調査・研究」、「資料収集」、「情報発信(展示)」、「教育活動」という四つの大きな仕事について、テーマを決めてひととおり実践してもらうというスタイルでおこなっています。最終的に、展示をつくり、それを活用したワークショップをおこないます。その際、アンケートをとり、自分の展示やワークショップの効果について検証します。最初は比較的のんびりとしている実習生も、期日がせまると、遅くまで残って仕事をしたり、それでも終わらないときは仕事を持ち帰ったりしていました。

首藤さんは、御船層群の基盤岩のひとつである、「肥後變成岩」をテーマとして選び、それぞれの岩石薄片（岩石をスライドガラスに貼り付け薄く研磨したもの）を作成し、それぞれの岩石をつくっている鉱物を顕微鏡で観察させるという展示を作りました。この作業の過程で、「深い専門的な知識の必要性を感じた」という感想を持ったようでした。



中澤さんは「**熊本の地下水**」をテーマとして選び、発泡スチロールを使って熊本市周辺の地形の立体模型を作成し、地下の構造と地下水の関係を解説しました。また、熊本の豊富な地下水の原因となっている「**砥川溶岩**」を採集し、展示しました。

市丸さんは、**大分県の阿蘇野層の植物化石**をテーマに植物化石の同定と古環境の推定について展示を作成しました。現生の植物の葉を用いて、クイズ形式で化石の同定にチャレンジしてもらうというので、シンプルですが、よく工夫してあるものでした。

恐竜博物館では、教育活動の一環として、このような実習生の受け入れを積極的におこなっています。

土曜日だ博物館に行こう！▶▶▶

- 10月4日 「アンモナイト」
- 11月8日 「恐竜の歯」
- 12月13日 「ビカリア」

「土曜日だ博物館に行こう！」が開催される土曜日には、朝早くから子どもたちが集まっています。10月・11月・12月は、「アンモナイト」「恐竜の歯」「ビカリア」について学習しました。



▲ティラノサウルスの歯について勉強

▲レプリカづくりは楽しい!!



▲講師の早川浩司先生

お知らせ①

御船町恐竜博物館 e会員 募集中！

御船町恐竜博物館では、行事案内や最新ニュースを電子メールで受け取ることができる、e会員を募集しております。
入会金、会費等は無料で、申込方法はとても簡単。下記アドレスまで、「e会員希望」と書いたメールをお送りください。お手数ですが、結構です。
(email) info@mifunemuseum.jp

楽しい行事や
話題いっぱい！！

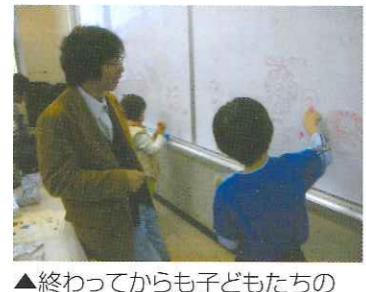
みんな
熱心に学んで
います！



▲アンモナイトにもいくつも種類があります

恐竜の歯に参加した男の子（小4・御船町）は「とてもたのしいし、しらべるところから始めるというのは、いい考えだとおもった」と完成したレプリカを手に、喜んでいました。

レプリカといっしょに“知識”を持って帰ることができますように、内容も充実させる必要があります。



▲終わってからも子どもたちの質問にこたえていただきました

クレイド古生物研究所の早川浩司先生を講師にお招きして、講演会を開催しました。

演題は「アンモナイトの不思議」。早川先生が北海道をフィールドとして研究されているアンモナイトについて、まだまだ多くの謎が残されていることをわかりやすくお話ししてくださいました。また、最近北海道から発見されている恐竜化石やアンモナイトの化石と一緒に見つかる海竜の化石についての紹介もありました。

講演会終了後は、クイズ大会があり、早川先生から、北海道のアンモナイトの化石（実物！）のプレゼントもありました。

その後、北海道のアンモナイトのレプリカをつくって、思い出をかたちにして、持ち帰りました。先生も最後までおつきあいください、子どもたちの質問に丁寧に答えてくださる姿が印象的でした。



▲アンモナイトのレプリカづくりに挑戦

恐竜ってどんな生物？

第6回の博物館セミナーは「恐竜の不思議」と題して、博物館内であり11名の参加がありました。

最古の恐竜オラブトルやアルシャサウルスなど館内に展示してある恐竜骨格をみながら、恐竜の種類によって体のつくりがどのような違いがあるかということや、トリと恐竜にはどんな共通点があるのかということを学びました。よく見てみると恐竜には不思議なところがたくさんあり、あっという間に2時間がすぎてしまいました。

玉名市から参加されたご家族は「小1の子どもがNHKの番組を見て化石に興味を持ちましたので、今日参加しました。少し難しかったかもしれないが、今興味のある事に結びつく勉強ができた良かったと思います」と話しておられました。

今後は、発見する楽しさを伝えることができるプログラムの開発が望まれますが、そのためには博物館の職員も発見する楽しさをたくさん知っておく必要があります。



▲恐竜骨格の説明に聞き入る参加者



恐竜の足の骨の数は…

▲恐竜骨格の違いがわかった!?

12/21
(日)

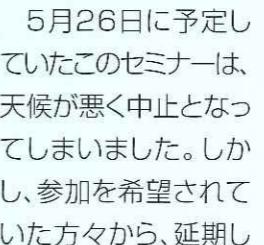
博物館セミナー

ミフネリュウの産地をたずねて

参加者:11名



バスを待つ
あいだに
ハイ、ポーズ！



5月26日に予定していたこのセミナーは、天候が悪く中止となってしまいました。しかし、参加を希望されていた方々から、延期して実施してほしいという要望が多数ありました。日程調整がうまくいかず、12月になって、ようやく実施することができました。年末のいそがしい時期ということで、少人数のセミナーになりましたが、天気も良く、気持ちよく野外観察ができました。博物館に集合して、熊本バス御船

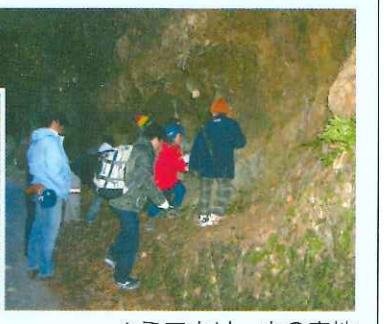
日 程 表

8:30	恐竜博物館集合
9:00	熊本バス御船営業所発
9:15	上梅木着
①	ミフネリュウの産地
②	御船層群の貝化石
③	水越層とその化石
④	水越層と御船層群の境界等
正 午	昼食
14:27	田畠バス停発
15:00	御船営業所着



営業所から水越行きのバスに乗り、上梅木のバス停でバスを降りました。ここからは、徒歩で、粒麦をとおって水越に向かいました。上梅木から水越一帯は、「ミフネリュウ」の化石が発見された、日本の恐竜化石の発見にとって歴史的な場所です。

恐竜時代の地層御船層群は、いつの間にか水越層という古生代の地層にかわり、地層をながめながら山道を歩いていると、タイムマシーンに乗って時間をさかのぼっているような気分を味わうことができます。



▲ミフネリュウの産地

お知らせ②

メールやFAXでもOK!

「ダイナソートピックス」に記事を投稿してください！

「ダイナソートピックス」編集室では、博物館に対する提言、話題提供、研究ノート、記事など広く募集しております。多数のご投稿お待ちしております。